

採 択 理 由 書

種目名	国 語								
発行者番号	発行者略称	教科書の記号・番号		書 名					
38	光 村	113	114	213	214	一上 かざぐるま	一下 ともだち	二上 たんぼぼ	二下 赤とんぼ
		313	314	413	414	三上 わかば	三下 あおぞら	四上 かがやき	四下 はばたき
		513	613			五 銀河	六 創造		

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

各学年の巻末に「言葉の宝箱」「季節の言葉」が掲載されており、これらを活用することで語彙を増やすことができる。各単元には「学習で用いる言葉」が表記されている。当該学年だけでなく、それ以降の学年においても巻末に掲載されているため、児童が前学年の学習を想起することができる。対話の基礎的な内容について、具体的な語例を示して学年に応じて身につけられるように「話す・聞く」単元が設定されている。また、各学年に位置づけられているため、螺旋的に対話の能力を積み上げることができる。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

学習過程が「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」の4ステップで示されており、考えを深める課題や活動が具体的に示されている。そして、これらは学習指導要領国語科の「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」の3観点に対応している。説明的文章教材では、短い練習教材である「プレ教材」が位置づけられており、「メイン教材」で学習を深めることができる構成になっている。高学年の「物語文」「伝記」の教材では、見方・考え方を広げて、人物の生き方から、自らの生き方を関連させて学びをつないで深めることができるような単元設定、教材の選定がされている。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

「問いをもとう」が新設されている。自ら問いをたて、学習を進める学び方が示されているため、「個別最適化」に対応したつくりになっている。低学年にとっても、見通しがもちやすい。学習の手引きにおいて、「できるようになりたいこと」の記述欄が設定されており、児童が、単元のゴールの見通しや、楽しみをもって学習を始めることができる。学習の手引の「学習計画」がシンプルで分かりやすく提示されており、学びやすい。教師と児童が単元の見通しを共有することができるつくりになっている。

<組織・配列・分量>

各単元・教材のねらいが明確であり、学ぶ内容がよく分かり、基礎的・基本的な内容が着実に身につく配列である。児童の身近な題材が設定されていたり、他教科に活用できる時期などが考慮されたりした配列になっており、教科横断型の学習にも対応している。

(形式)

<資料>

付録に他の単元、他教科に活用できる資料が豊富に掲載されている。また、QRコードは作者の朗読などが用意されており、工夫はされているが、他社に比べると、自主的な学びとして活用するものとしては不十分である。

<表記・表現>

表紙の統一感があり、温かみがあり児童にも親しみやすい。採用されている文字は、低学年には見やすさ、高学年には読みやすさを配慮している。ルビの文字は黒色で、色覚の多様性に対応している。

(総括)

光村図書の採択に至った経緯について、光村図書の3点の特長をもとに以下に述べる。

1点目は単元、教材のねらいが明確であることである。学習の流れが一覧できる紙面構成になっており、見通しをもって学ぶことができる。この点について、他社と比較をして最も特色のある点は、2年生以上の「学習の手引き」において、「問い」と「もくひょう」が設定されている点である。これらが設定されていることにより、児童は単元の見通しをもったり、主体的に学習に取り組んだりすることができる。光村図書の編集の趣意書によると「問い」を設定した経緯について以下のように言及されている。『自分自身の「問い」を出発点にする学びは子どもたちを自然と夢中にし、学びへの意欲をかきたてます。それは、次の学びへの意欲や期待にもなり、子どもたちをさらに突き動かしていきます。』今あらためて注目をされる「問い」をもつことは児童たちが自ら問い、問い続け、問うことの価値を感じる児童を育成することにもつながる。また、問いを自ら持ち、問いを解決する学習過程は今必要とされている「個別最適な学び」の学習にもつながると言える。

2点目は、「学習の手引き」が批判的な思考を伸ばすように設定されていることである。2018年のPISA調査において、日本の児童・生徒は「読解力リテラシー」において課題があることが明らかになった。特に、文章を批判的に読む「評価と熟考」を苦手としている。各社ともに、批判的な思考を育成するつくりになっているのであるが、光村図書は非連続テキストを用いた単元だけでなく、「物語文」「説明文」教材の両方においても、「精査・解釈」「評価と熟考」の批判的思考を育成する内容が記載されているため、今求められている学力を伸ばすことに対応していると言える。

3点目は、各学年での学びを螺旋的に積み上げることができる点である。選定された作品や取り上げている言語活動は、学年内、学年間を見通して系統的、段階的に位置付けてある。また、例えば「読む」領域であると、説明文教材の一学期の学習は、「プレ教材」「メイン教材」の2段階構成で段階的に学ぶ構成になっているなど、学期ごとの位置づけも各学年で同じように設定してあるため、学年が上がるにつれ、児童は学習の見通しがもちやすいつくりになっていると言える。

以上光村図書の特長を3点挙げたが、総合的な観点からも、基礎的・基本的な内容が着実に身につけることができ、分量も適切であると考えられる。

採 択 理 由 書

種目名	書 写
-----	-----

発行者番号	発行者略称	記号・番号	書 名
38	光 村	108 208	しよしゃ 一ねん 　しよしゃ 二年
		308 408	書写 三年 　　　書写 四年
		508 608	書写 五年 　　　書写 六年

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

各学年の巻頭に「学習の進め方」が表記され、見通しをもって学ぶことができる。書写用具の写真が大きく、準備や片付けの仕方も分かりやすく学年間で統一されて表記されている。1年生の硬筆、3年生の毛筆の導入では、「スタートブック」として設定され、基本的な内容を丁寧に解説している。筆の使い方は、猫のイラストと「すうっ」などの言葉で示され、支援が必要な児童にも理解しやすい。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

国語で選定推薦した発行者であるので、国語の教科書で学んだ内容をそのまま書写の授業で活用することができる。学習の進め方が、ねらいに沿って、考えよう→たしかめよう→生かそうのステップで示され、思考する学習活動を経て、書く表現に生かす流れとなっており、書写の時間にも思考力を育成することができると思われる。「振り返り」については、振り返りの項目が具体的に示されていない。しかし、振り返りに時間をかけず、技能を習得できる。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

学習の流れがひとめでわかり、一文字で学習した原理、原則を他の文字で応用できる流れになっているので、主体的で深い学びに向かうことができる。

<組織・配列・分量>

左ページに題字、右ページに解説があり、配列、分量ともに適切である。学習の流れに沿って、自分で目標や課題を確認できる配列になっている。巻末に、本を作った人からのメッセージや先生・保護者へのメッセージが掲載され、家庭も巻き込んで学習を行うことができる。

(形式)

<資料>

正しい姿勢が学べるスポーツ科学の専門家による「書写体操」「整理体操」の動画をみることができ、楽しく、習慣づけられる工夫がされている。学習指導書に、手本作成ソフトが用意されており、半紙サイズの手本を作成できるだけでなく、手本に児童の氏名の手本を印刷できる機能があることにより、児童一人一人に合った手本を配布することができる。

<表記・表現>

表紙のイラストがやわらかいイメージであり、手本の文字の書きぶりは一貫している。猫のイラストや筆の動きを表すオノマトペが使われていて、楽しい雰囲気、分かりやすい。

(総括)

光村図書の推薦に至った経緯は、学びやすく、教えやすいことである。ねらいや「学習の進め方」が課題ごとに設定されているので、児童が見通しをもって学習を進めることができる。また、学習の流れにそって、目標や課題を自分で確認できる配列になっていることから、個に応じた学びができる。書写の基本をまとめて掲載した「スタートブック」、となえて書くひらがなの筆使いなど、書く力を伸ばす工夫がされている。情報を精選し、大切なことがひと目でわかる、すっきりとしたレイアウトで、適切な内容量と配列であるので、特別な支援が必要な児童にとっても、混乱が生じにくく学びやすいと思われる。以上の点から光村図書の採択が適切であると考えられる。

さらに、これまでの北播磨地区採用の書写の教科書は、国語の教科書と発行社が異なっていたため、基本的な内容でも、それぞれ学ぶことに若干の相違があり、入門期においては、学ぶ側にも教える側にも混乱が生じるという悩みがあった。児童の学びやすさを考えると、国語の教科書との整合性を考慮し、光村図書を採択することで、より効果的に指導することができる。

採 択 理 由 書

種目名	社 会
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	記号・番号	書 名
2	東 書	社会 305 社会 405 社会 505 社会 506 社会 605 社会 606	新編 新しい社会 3 新編 新しい社会 4 新編 新しい社会 5 上 新編 新しい社会 5 下 新編 新しい社会 6 政治・国際編 新編 新しい社会 6 歴史編

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

重要語句が「ことば」としてページ番号上部の決まった位置に明示してある。また、歴史編では「年代ものさしや、単元のはじめページの右端」などに全体の中での学習する時代の位置づけが書かれており、知識および技能の習得に効果的である。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

「マイタイムライン」「ダイヤモンドランキング」など思考を促す工夫や、それらを使った表現力を育成する活動などの授業展開が見込める。単元末の「まとめる」「いかす」などの場面で活用できるワークシートや多様な表現活動の紹介があり、充実している。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

社会科のスタートである3年最初の学習が、「まちの様子」から始まり、2年生活科のつながりもあって、スムーズに学びにつながる。さらに単元末の「いかす」の学習が多く含まれており、社会事象を自分事として捉え、学びをきっかけに進んで発展的な学習へ導く手立てがある。

<組織・配列・分量>

各ページに「問いの構造のインデックス」が記載されており、問題解決的な学習や自主学習などの活動を効果的に進められる。

(形式)

<資料>

3年最初の資料が見開きのイラストで興味を惹きやすく、「市のうつりかわり」では、明石市のまちの定点写真の比較がわかりやすい。また、6年政治編「裁判のしくみ」のイラストでは、説明も追記されており、イラストや写真の配列が工夫されており、注釈がなくても時系列や様子がわかりやすい。

<表記・表現>

5年（食料生産）の単元では、児童にとって身近な給食から学習に移行でき、複数の給食が提示されていることから地域の特色もわかり、食育にもつなげられる。

(総括)

各ページの文章量、資料数が適切で見やすい構成となっている。各単元末に「いかす」学習が多く含まれており、習得した知識や技能を活かして思考判断する場面が工夫して設定されており魅力を感じる。また、全体的に児童に身近な部分を導入などで用い、興味を惹く工夫もされている。

採 択 理 由 書

種目名	地 図
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	記号・番号	書 名
46	帝 国	地図 304	楽しく学ぶ 小学生の地図帳 3・4・5・6年

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

3学年で学ぶ地図記号について、「もともになったもの」のイラストと地図記号が対になっており、視覚的に理解しやすい。一方で、6学年で学ぶ世界史に関連する資料が少ない点が課題である。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

日本の自然災害の紹介に留まらず、防災の取り組みや教訓、防災マップの手順やモデルが示されているため、児童の地図を使った表現の補助となる。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

SDGs に関する記述が随所に見られ、各国で実施されている SDGs の項目について知ることができる。そのため「持続可能な社会を目指す視点」を養うことができる。また各頁に記載されている地図に関するクイズ「地図マスターへの道」が資料活用能力を高め、主体的な学びの力を伸ばすことができる。

<組織・配列・分量>

紹介している内容が多く、充実した分量となっている。また、他教科との連携が見やすく、外国語や総合等、横断的な学習にも活用しやすい。

(形式)

<資料>

手話で都道府県名を表すイラストがあり、インクルーシブ教育への動機づけがなされている。

<表記・表現>

世界地図のページでは、陸の高さや海の深さに準じて塗り分けられたページ以外に、国ごとに色分けされたページがあり、国境や国土が視覚的に捉えやすい。また記載する内容が児童の発達段階や学習内容に応じて絞ってあり、注目する箇所が分かりやすい。

(総括)

記載する情報が学習の必要性に応じて絞って整理されており、初めて地図帳を手にする3年生にとっても、世界に目を向けグローバルな視点で学習する6年生にとっても、注目する箇所が分かりやすく活用しやすい。自然災害についても、災害の紹介に留まらず、防災マップ作成等、表現の補助となる内容が記載されていることもよい。SDGs に関する記述が随所に見られ、「持続可能な社会の実現を目指す視点」を養うことができる。他教科との関連が見やすく、外国語や総合等、横断的な学習にも活用することができる。

採 択 理 由 書

種目名	算 数
-----	-----

発行者番号	発行者略称	記号・番号	書 名
61	啓林館	算数 120 算数 121 算数 220 算数 221 算数 320 算数 321 算数 420 算数 421 算数 520 算数 620	わくわくさんすう 1すたあとぶっく わくわくさんすう 1 わくわく算数 2上 わくわく算数 2下 わくわく算数 3上 わくわく算数 3下 わくわく算数 4上 わくわく算数 4下 わくわく算数 5 わくわく算数 6

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

筆算の仕方を学ぶ単元では、筆算の手順に沿った唱え方が明記されている。口で唱え、耳で聞き、手で書いて練習する方法は、低・中学年の児童にとって取り組みやすく定着につながりやすい。習得・活用が困難と言われる「割合」では、内容を分割して単元を設定し、繰り返し取り扱うことで、意味や用法の定着を図っている。また、巻末も含め、練習問題の数が多いため、習熟が図れる。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

入門期の加減法の学習の前に、「増える」「減る」という意味の理解につながる単元が設定されており、素地を養うことができる。

「単位量あたりの大きさ」の単元では、思考や解決の手がかりとなる図の提示がなされていないが、「割合」の単元では、多くの教科書に掲載されている数直線図や線分図だけでなく、関係図も示してある。多様な思考を促すとともに、問題場面の読み取りから作図、立式へとつなげやすい。関係図のかき方を3年生から継続的に指導することで、思考の仕方を身につけやすい。

また、全体を通じて、キャラクターが話す吹き出しにおいて、数学的な見方・考え方を促す言葉にマーカーを付し、強調している。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

各時間に、「めばえ」「めあて」「まとめ」が例示されており、児童が自ら問いや見通しを立て、主体的・協働的によりよい解決に向かう力の育成が図られている。単元末には、児童が自分の学びを確かめ、発展的に考える「学びのまとめ」が設定されている。知識・理解や思考の定着を確かめるとともに、自分自身のがんばりや友達と協働した学びを振り返って達成感をもつことで、次の学びに向かう力へとつなげることができる。

<組織・配列・分量>

各ページに図や資料がバランスよく配置されている。また、余白を用いることで、とても見やすいページ構成となっている。

単元配列では、3年上で九九表をおさえた直後に、わり算の学習に入ることで、児童が内容のつながりを意識して学習できる配列となっている。

(形式)

<資料>

資料内容では、環境問題や食育、防災などSDGsにかかわる今日的課題を意識させる資料が含まれる。これらの資料を扱った問題は「〇〇プロジェクト」と題されており、児童自ら社会的問題を解決しようとする姿勢が育まれるよう構成されている。

「未来へのとびら」では、「お仕事インタビュー」と題して、職業と算数とをつなぐインタビュー内容となっている。キャリア教育の視点からも効果的な資料である。

<表記・表現>

入門期の1年生用のスタートブックは、半具体物の操作活動に適したサイズと製本方法である。

(総括)

本書は、算数科で学習したことを活用していく力の育成に重点をおいている。練習問題や補充的な問題を多く掲載し、児童に基礎・基本となる数学的な知識・技能を習得させるのに適している。そして、毎時間、意図された、解決に向かう思考の道筋をたどることで、考える力や学びに向かう力の育成を図っている。本書を用いることで、「習得・活用・探究」の学習に加え、自分なりの方法で解決を試みる自立した学習者の育成が図れると考える。

採択理由書

種目名	理 科
-----	-----

発行者番号	発行者略称	記号・番号	書 名
61	啓林館	理科 312 理科 412 理科 512 理科 612	わくわく 理科3 わくわく 理科4 わくわく 理科5 わくわく 理科6

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

単元導入や本文中の適所に「思い出そう」が設置されており、既習事項や日常経験を確認・共通理解した上で、単元の学習を進めることができるようになっている。また、実験ごとに気をつけるポイントが分かりやすく書かれており、安全面に配慮しながら実験や観察に取り組める。そして、「スマートかいせつ」で練習問題の解答と解説を見ることができ、学習内容の定着を図ることができ、「まとめノート」により学習内容が整理され、児童が復習する手助けになっている。さらに、理科につながる「算数のまど」が充実していることで、他教科とのつながりも意識することができる。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

「問題をつかもう」や「予想・計画」、「結果から考えよう」などの対話的・協働的な活動が充実しており、思考力や表現力が育まれる学習場面が設定されている。その際に、児童が意識的に理科の見方・考え方を働かせられるように、吹き出しの中にマーカーが引かれており、思考の焦点化をさりげなくサポートされている。また、単元末の「活用しよう」では、図や写真などの非テキストから情報を読み取る問題が扱われており、思考力の高まりを期待できる。さらには「これまでの学習をつなげよう」において、複数の単元や学年にまたがって学習した内容から、知識を関連付けて思考する力がつくように工夫されている。巻末には、記録カードやノートのまとめ方、話し合いの方法などが示され、表現力が向上するように配慮されている。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

問題解決の各過程を言葉で大きく示すとともに、全ての過程を学びのラインでつなぐことで、児童自身が見通しをもって主体的に学べるよう配慮されている。特に、予想・計画の場面や考察の場面では、理科の見方・考え方を働かせた対話的な学習活動を例示し、深い学びにつながるようにしてある。

具体的には、問題解決の流れの中の適所に、「もっと知りたい」が設けられ、新たな問題発見に向かう意欲が高まり、学びの連続性を意識できるようになっていることが挙げられる。さらには、「活用しよう」「くらしとリンク」「理科の広場」「もう一度考えよう」「with the Earth」「自然を大切に」のコーナーで、日常生活や防災教育、キャリア教育、SDGsに関連付けられるような工夫が随所に見られる。

<組織・配列・分量>

各学年で年間 10 時間程度の余裕が生まれる時間配当となっている。他教科のマークが適宜配置されており、関連する教科が分かりやすい。単元導入や本文中の適所に「思い出そう」を設け、生活科・理科の既習内容や、各教科等での学習、生活経験などを振り返って関係付けながら、系統的に学習を進めることができる。

<ICT の活用>

プログラミング教育では、全学年にQRコードによる「やってみよう！プログラミング」を設置し、3年からプログラミングを体験しながら論理的思考を育むことができる。「くらしとリンク」のコーナーでは、自分でも調べ学習ができるよう、検索用のキーワードが紹介されている。巻末の「WaCBIT (ワクビット)」では、映像から情報を読み取り、問題に答えるCBTコンテンツを体験することができ、読解力や情報活用能力の向上が図れるようにしている。単元末問題の答え合わせが答えだけでなく、QRコードによる解説付きとなっている。理科の学習をベースに、技術やものづくり、アート、算数・数学的な発想を組み合わせた題材には、「STEAM 理科×ものづくり」などマークし、ICT を活用した教科横断型な考え方や視点が養われるようにしている。

(形式)

<資料>

AB 判にすることで、机上のスペースにゆとりができ、タブレットやノートなどが置きやすくなっている。また、掲載されている写真はどれも美しく、兵庫県に関する内容や資料が豊富で、児童らは身近に感じることができる。

<表記・表現>

UD フォントを採用したり、色覚特性を含めた全ての人が見やすい色の組み合わせを用いたりして、インクルーシブ教育の観点を多く取り入れた教科書になっている。さらには、理科用語の表記に、上位学年の配当漢字を使用しルビも付けている。また、「問題」に一番太いフォントを用いていることから、児童による問題提起を重要視していることが分かる。

(総括)

学びのサイクルが明確にされており、協働的な問題解決を繰り返すことができる授業構成となっている。また、今日の課題と関連した内容が多数掲載されており、理科の有用性を感じることができる。形式においては、若干掲載されている写真が小さく感じる。総じて科学的な真理を追及することを本質としながら、近年の社会的教育的な問題にも対応したバランスの良い内容となっている。

採 択 理 由 書

種目名	生 活
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	教科書の 記号・番号	書 名
38	光 村	生活 127 生活 128	せいかつ たんけんたい 上 はじめてが いっぱい せいかつ たんけんたい 下 はっけん だいすき

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

文章による表記や説明が必要最小限で、低学年の児童が学習に集中しやすい。また、季節ごとに地域の様子や行事等を意識した写真が掲載されている。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

気付きとして取り上げたいことをあえて表記せず、何気ない疑問を投げかける表現（挿絵）が多く取り入れてあり、児童が見たり考えたりしながら気付きを生み出すことをねらっている。また、各単元共通の思考の流れが明記され、児童が見通しをもちやすいよう配慮されていたり、児童の気持ちを単元に合わせてふり返りで問い、次の単元への意欲に繋げたりしている。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

イラストや吹き出し等の内容が、身近な生活に結びついており、児童が親しみやすく、学びを生み出すための手立てとして機能している。

<組織・配列・分量>

児童が思考を広げやすくなるような構成になっている。また、巻末資料を取り外すことができ、学習で使いやすい。

<指導者の取り扱いのしやすさ>

授業をする上で、児童の活動や思考を広げやすいが、指導者の授業構成力が重要となる。

(形式)

<資料>

生活科の学習を行う上で大切な項目を、QRコードを用いて示してあり、児童の安全面に配慮したり、体験活動の指導に役立てたりできる。

<表記・表現>

問いかけの表記によって、児童が考えを持ちやすい。表紙イラストでは、1年～2年にかけて生活科で学びを進めていく道筋を示す意図が見られる。

(総括)

教科書を抛り所として、児童が疑問をもったり、調べてみたいと思ったりするような構成になっており、知識に偏るのではなく、気付きを生み出したり気付きの質を高めたりするような使い方ができる。

採 択 理 由 書

種目名	音 楽
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	記号・番号	書 名
17	教出	音楽 103	小学音楽 おんがくのおくりもの1
		音楽 203	小学音楽 音楽のおくりもの2
		音楽 303	小学音楽 音楽のおくりもの3
		音楽 403	小学音楽 音楽のおくりもの4
		音楽 503	小学音楽 音楽のおくりもの5
		音楽 603	小学音楽 音楽のおくりもの6

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

知識及び技能の習得に役立つ、多種多様なデジタルコンテンツが多く提示されている。また、わかりやすい紙面構成で、児童が意欲的に取り組める学習内容となっている。

例えば器楽の学習において、1年生から、鍵盤ハーモニカのタンギングの指導があり、3年生からのリコーダーのタンギングの指導へのつながりがある。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

教材の良さを活かした的確な発問を「学びナビ」として提示し、児童の学びを支援している。そして、発達段階に応じた無理のない発問内容になっている。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

動画や音源、ワークシート（コンテンツ）を利用できる学びリンクが充実しており、児童の主体的な学びを引き出すような内容になっている。そして、コンテンツを利用し、児童が一人学びや家庭学習に取り組むことができる。また、児童の創意工夫を伸ばすことができる音楽づくりの教材が充実している。

<組織・配列・分量>

分量は妥当で、全領域（歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞など）において児童が一つ一つの教材に興味関心を持ちながら深く学ぶための配列になっている。

<補助教材>

巻末教材が充実しており、音楽会等で使用できる魅力的な楽曲が多い。

(形式)

<資料>

美しい写真や子どもの興味を引くようなイラストが使われている。

<表記・表現>

文字が大きくて見やすい。また、1ページあたりの文字の分量が少なくすっきりしていて、見やすいフォントや色づかいになっている。

(総括)

音楽の楽しさや美しさにあふれる教科書であった。学ぶことが焦点化されており、教材を深く楽しみながら味わうことができる。豊富なコンテンツを利用して、児童が自ら学び、その学びを深めることのできる教科書となっている。

採択理由書

種目名	図画工作		
発行者番号	発行者略称	記号・番号	書名
116	日 文	図工 107 図工 108 図工 307 図工 308 図工 507 図工 508	ずがこうさく1・2上 まるごと たのしもう ずがこうさく1・2下 まるごと たのしもう 図画工作3・4上 ためす 見つける 図画工作3・4下 ためす 見つける 図画工作5・6上 わたしとひびき合う 図画工作5・6下 わたしとひびき合う
<p>(採択理由)</p> <p>(内容)</p> <p><知識及び技能が習得できるための工夫> 身につけたい知識や技能がめあてや巻末に具体的に記載されているおり、工作の題材は、作り方の解説をイラストや写真でわかりやすく説明している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> 制作の過程で思考する場面が設定しており、表現したいことを考えるための視点やキーワードが示されている。用具の適切な取り扱いの定着を図り安全に活動できるよう既習事項の提示がなされている。身近なものから諸外国の美術作品まで、多様な形や色との出会いを大切に、造形的な視点で作品を捉える良さや面白さを示している。鑑賞教材で全体像と着目したい部分の写真を対比させることにより技法の効果を考えたり、作品の見方を広げたりできる。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> 作品作りを楽しむだけでなく、作品のよさを味わうことやおもしろさを感じとることで学びが深まり次の学習への意欲づけがなされている。ふりかえりに活動を通して感じたり考えたりすることが提示してある。また気づきを大切に、何を学びどのような技能を身につければよいのかが明確に記してあることで学びを次の学習に生かし学年相応の力が身につく工夫があり、使用している材料が身の回りのものが多く、授業が終わった後も自分たちで楽しむことができる内容が多い。さらに、持続可能な開発目標（SDGs）に関わる多くの課題について、子どもたちが関心をもって取り組める、環境、地域文化・伝統文化、多文化共生、国際理解、平和・人権、防災・安全に関わる題材や事例を取り上げている。全国の様々な造形活動や美術館の取り組み、伝統工芸、美術作品などを掲載し、児童が地域に関心を持ったり、活動の参考にしたりできるよう配慮している。幼児期との接続ページや、過去の学年を振り返るページを設け、次の学年に向けて学んだことを確かめるようにし、丁寧に学びを積み重ねられるように工夫している。</p> <p><組織・配列・分量> 発達の段階とともに学びを深めることができるよう、地域や学校の実態、児童の状況に合わせて、また一年の流れに沿って行事や季節に応じた題材を選択できるよう、豊富な題材が系統立てて掲載されている。彫刻刀を使用した制作活動が4年生から毎年取り入れてある。基本から応用までの技能が発達段階に応じて習得できるようになっている。大きい写真が活動のメインと分かりやすい。巻末の道具の使い方のページでは、基本的な使い方やポイントをわかりやすくイラストと写真を使って説明しており、項目ごとに線で区切られていたり、区画ごとに配列されていたりすることですっきりとしたレイアウトで見やすく活用しやすい。児童の実態に応じて活動の仕方を考えることができるよう、同一題材の中で「屋内／屋外」「自然材／身边材」「個人／協働」など、複数の実践パターンが掲載されている。学習の流れが見える配列がされており、①導入の言葉②学習のめあて③表現のヒント④鑑賞のヒント⑤振り返りまでの一連の流れと、その時の言葉掛や投げかけが授業者にとってわかりやすく表記されている。「学習のめあて」では3観点を5項目に細分化されて、わかりやすく表示されている。「知識及び技能」は「知識」と「技能」に、「思考力、判断力、表現力」は「発想や構想」（A表現）と「鑑賞」（B鑑賞）に分かれており、目当ての5項目はそのまま評価規準の観点に繋がっている。</p> <p><その他> 他教科と関わりのある題材については「つながる学びマーク」をつけて示してあり他教科等の学習活動と結びつけ横断的な学習ができるようになっている。特に低学年では生活科と関連のある題材や事例が多く掲載されている。しかし、題材の例が多いため、授業をする際教師が題材を取捨選択する必要がある。</p> <p>(形式)</p> <p><資料> 掲載されている作品すべてに使用するものが記載されており、参考にしやすい。用具の用途が一覧になっており、また教科書の巻末に各学年で学習する技法について、絵や写真を使って大きく分かりやすい説明がある。高学年であっても自然の中での造形活動があり地域の特性を生かした活動や地域の自然に親しむ題材がある。</p> <p><表記・表現> もくじを見たら、制作活動であっても鑑賞をすることが可能であることがわかるようになっている。表し方を整理し、表現を深めるためにシンキングツールの提案がある。コントラストや文字の背景色、色の濃淡などカラーユニバーサルに配慮されている。</p> <p>(総括) 児童の興味関心を引き出し自ら活動に取り組みたいと考えるような工夫や低・中・高学年と経験を重ねながら、学ばせたい事柄、用具の取り扱いや技能などを確実に身につけることができるよう題材配列の工夫が見られ学びを広げることができる。「楽しい」だけでなく図工で何を学ぶのかが分かりやすく児童にとっても教師にとっても学習活動を進めやすい教科書といえる。</p>			

採 択 理 由 書

種目名	家 庭
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	記号・番号	書 名
9	開隆堂	家庭 504	わたしたちの家庭科 5・6

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

各ページにQRコードがついており、知りたい内容を繰り返し確認することができる。また触って動かせる動作コンテンツで知識の確認ができる。P.16「野菜やいものゆで方」は、理解できていない中学生も多い内容がわかりやすく表にまとめられている。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

P111「袋作りの計画」のデジタルコンテンツは、製作の計画をイメージしやすく、児童の意欲・関心も高められる。「レッツトライ」で新たな課題を発見し実践力をのばすステップを説明している。しかし実践例が離れたページに掲載されているため教師側が把握しておく必要がある。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

個の興味・関心を自分の言葉で記述する自分なりのめあて（マイめあて）の欄が設けられており、授業へ興味関心付けができる。また、キャリアインタビュー（働く人の特集）が設けられており、より詳しい内容を知り仕事への関心を持つことができる。用語や参照できる資料が掲載されており、単語から教科書の内容やインターネットページにリンクして児童が探しやすい、学習した内容をふり返り主体的に活用できるページがある。

<組織・配列・分量>

裁縫、調理、生活についての単元が2年に渡ってほぼ同時期に同量配列されており、複式学級の指導がしやすい配列になっている。様々なページや学習内容の中に他教科との関連について詳しく掲載されている。

(形式)

<資料>

調理や裁縫の実習の手順や必要な情報が見開き2ページに収められており、手順の見出しが横一直線に並んでいて見やすい。また、巻末についている「栄養素の働きによる食品の分類」表が、教科書を開いた状態でも見られるように工夫されている。裁縫においては、手順写真の背景がやさしい色で見やすい。さらに中学校の技術家庭との関連が2ページ見開き（P136-137）にまとめられている。調理実習時に役立つように実物大の資料（P149 切り方と大きさのめやす）がまとめられている。その他、兵庫の郷土食等が紹介されていたり、巻末に安全・防災に関する情報がまとめられていたりする

<表記・表現>

一つの単語が行をまたがないように調節されており、文の意味をつかみやすく読みやすく表記されている。

(総括)

家庭科としての知識・技能についての情報だけでなく、SDGs や安全防災、キャリア教育等についての情報も多く掲載しており、それらをまとめたページがある点、ワークシートやデジタルコンテンツが用意されており、書き込むだけでなく考えながら操作し答え合わせができる「動作コンテンツ」が児童の関心・意欲を高める工夫がされている点、調理や裁縫の手順が見開きで横一直線に並んでいる点で、児童にとって活用しやすいと考えられる。

採 択 理 由 書

種目名	保 健
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	記号・番号	書 名
2	東書	保健 306 保健 506	新編 新しいほけん 3・4 新編 新しい保健 5・6

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

自分の考えを整理しながら記入できる記述欄が設定されている。各項末に穴埋め形式の問題があることで、その時間に学んだことを確認しやすい。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

習得した知識をもとに、筋道を立てて説明する活動が設定されている。また、自分事としてとらえ、どのように改善してくのかを同時に考えられたり、友達の考えと比較したりできるようになっている。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

気づきや感じたこと、友達の意見などを自由に記述できるメモ欄が設定されており、児童の主体性を引き出すことができる。他教科とのつながりが本文のすぐ側に見やすく表示されており、関連づけて考えることでさらに理解を深めることにつながる。

<組織・配列・分量>

1 単位時間の学習の流れが統一されている。

(形式)

<資料>

各項末に学習内容に関連した資料が添付されており、学びを深めたり広げたりできる。挿絵・写真・書き込み欄ともに見やすく、充実している。

<表記・表現>

本文中の大切な用語が太字で表記されておりわかりやすくなっている。個人差や多様性等への配慮が充実している。児童の多様な考え・気づきを書きやすい記述内容の発問になっている。

(総括)

学習の進め方が明確に示されていることで、児童の主体性を引き出すことができる構成になっている。自由に記述できるメモ欄や、考えを整理しながら記入できる記述欄が充実しており、知識の定着を図ったり対話的な学びにつなげたりすることができる教科書である。

採 択 理 由 書

種目名	英 語
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	記号・番号	書 名
15	三省堂	英語 513 英語 514 英語 613	CROWN Jr. 5 CROWN Jr. My Dictionary CROWN Jr. 6

(採択理由)

(内容)

<知識及び技能が習得できるための工夫>

言語活動を通して4技能の学習活動がバランスよく学習できる。

<思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫>

場面設定がわかりやすく、児童にとって取り組みやすい。また、簡単なインプットの学習から発展的なアウトプットの学習へと流れるようになっていて、理解が深まりやすい。

<学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫>

学習の流れがパターン化されており、見通しを立てて取り組みやすい。また、学習のテーマに沿って外国のことが紹介されている点や、他教科の既習事項が盛り込まれている点から、児童の興味関心を深めることができると考える。

<組織・配列・分量>

各ページの構成はゆとりがあってシンプルで、見やすい。

<中学校英語へのスムーズな連携>

読む・書くの活動が学習段階に応じて増やされており、中学校の学習に必要な読み書きの力を高めていけることが期待される。

(形式)

<資料>

様々な国のことや、時代に即した内容が紹介されているので、児童が興味をもちやすい。

<表記・表現>

色覚に配慮されており、落ち着いた色合いが見やすい。また、見出しの色をはっきりと目立たせてあり、指示も短くやるべきことがわかりやすい。

(総括)

教科書を開けたときに、児童の興味が湧きそうなイラストが多い。また世界の仕事や行事などが説明されているページが充実していて、外国の言語や文化に慣れ親しめるようになっている。さらに、児童がよく知っている短い物語で、児童にとってハードルの高い「読むこと」に親しめるページがあるところもよい。

採 択 理 由 書

種目名	道 徳
-----	-----

発行者 番 号	発行者 略 称	記号・番号	書 名
208	光文	道徳 117 道徳 217 道徳 317 道徳 417 道徳 517 道徳 617	しょうがく どうとく ゆたかな ころろ 1ねん 小学 どうとく ゆたかな ころろ 2年 小学どうとく ゆたかな心 3年 小学道徳 ゆたかな心 4年 小学道徳 ゆたかな心 5年 小学道徳 ゆたかな心 6年

(採択理由)

(内容)

<道徳科の目標に関わる工夫>

教材の見出し部分に、児童にとってわかりやすく答えやすいような文言が書いてあり、その教材で考える内容が明確になっている。

<現代的な課題などの題材を教材として取りあげるうえでの工夫>

教材の後に情報モラルの資料が配列され、「人権に関わる情報」や「いじめに関わる情報」など様々な切り口から取り入れられている。また、アンガーマネジメントやクラウドファンディングなども取り扱われており、より現実的な問題について考えられるようになっている。

<発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫>

教材には、発達年齢に応じた普段の学校で実際に起こりうるような内容が多く、児童にとっても身近な課題として考えやすい。

<「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫>

心情を問うだけでなく、多面的・多角的な発問が多く、児童が様々な角度から考える良い発問となっている。また、考え、議論する手立てとして学年に応じた思考ツールが提示されている。

<組織・配列・分量>

学年によって、内容項目のバランスに偏りが少々見られるが、教材が多いため、選択できるようになっている。

(形式)

<資料>

資料は多くはないが、動画や音声などの効果的な資料はQRコードで視聴できるようになっている。また、写真、絵が多く、色使いも明るいため、児童の興味もひきやすい。

<表記・表現>

字体が見やすく、低学年には全てふりがながつけられている。

(総括)

身近な問題や現代的な問題を取り上げた教材が多く、また、心情を問うだけでなく、様々な切り口から多面的・多角的に考えられるように工夫されている。

写真・絵が多く、色使いも明るいため、児童の興味をひきやすい工夫がされている。資料は多くはないが、必要なものはQRコードに収録されている。